

来年度の川部会活動方針（案）

■テーマ① 生き物の棲みやすい川づくり：本川モデル

目標・運営方針から見る活動内容

目標：現況把握・評価（カルテ作成）の取り組みを実践しながら、将来のあるべき姿（絵）を描く。

運営方針：

「①生き物の移動阻害について」と「②微地形の多様性（瀬淵・ワンドなど）について」を、まずは優先して取り組む。

WG時の意見交換内容から見る活動提案

- WGで加茂川水門の段差解消に取り組む。
- 大見川については、豊田市の検討状況を確認していく。
- 矢作川の河川環境の目標を、多様な視点（動植物、魚、利用者など）で見る必要がある。
- 白浜工区の順応的管理手法の経過を観察し、低水路幅拡張後の河道の応答状況を確認していく。
- 瀬淵やワンドの状況を把握し、保全エリアと手を加えていくエリアを示すMAPを作成してはどうか。
- 土砂の情報や詳細な河道地形の情報などの情報共有が必要である。

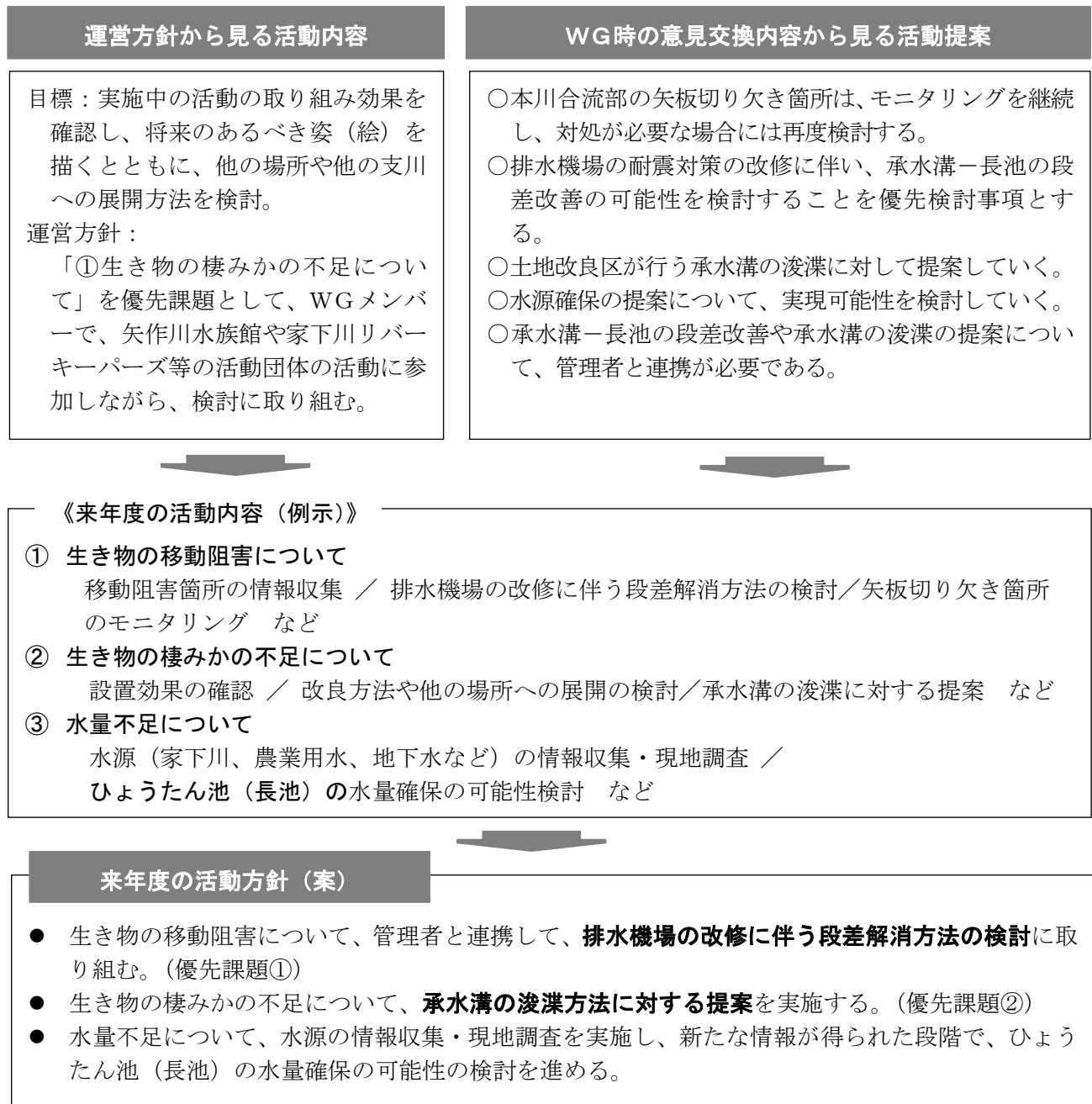
《来年度の活動内容（例示）》

- ① 生き物の移動阻害について
支川合流点評価のカルテ（案）の作成・評価の実施 / 加茂川合流点の段差改善の検討 / 現地調査の継続（未確認箇所）など
- ② 微地形の多様性（瀬淵・ワンドなど）について
瀬淵・ワンド評価のカルテ（案）の作成・評価の実施 / (仮)保全エリアマップの作成 / 川の微地形の把握 / 白浜工区のモニタリング / 河床変動の技術的検討 など
- ③ 河床のアーマーコート化
総合土砂管理検討委員会との情報共有 / 必要な土砂粒径等の詳細検討 など
- ④ 外来種対策
外来種の最新動向の情報共有 / 駆除活動への参加 / 駆除方法の改善等の検討 など
- ⑤ 在来種の減少
在来種の生息状況の情報共有 / 情報資源の活用 など
- ⑥ 事業内容の情報共有
河川整備計画の勉強会 / 事業内容の情報共有・提案実施 など

来年度の活動方針（案）

- 生き物の移動阻害について、WGメンバーで**加茂川合流点段差の改善**の検討に取り組む。
- 微地形の多様性（瀬淵・ワンドなど）について、WGメンバーで**現地調査を継続し、(仮)保全エリアマップを作成**する。
- 低水路拡張後の河道の応答状況を把握するため、定期的な目視による観測に加え、河床形状の測量を行うことにより、**白浜工区をモニタリング**する。
- 河川事業の基本の理解を深めるため、**河川整備計画の勉強会を開催**するとともに、今年度実施される**事業内容等の情報共有**し、必要な場合には、**市民や各専門の視点で提案**する。
- 生き物（在来種、外来種）の生息状況の情報共有を進める。

■テーマ① 生き物の棲みやすい川づくり：家下川モデル



■テーマ② 地先の課題：地先モデル

目標・運営方針から見る活動内容

目標：関係機関調整の場の提供と（仮）専門家リストの作成・試行的運用、個別課題の情報共有、解決の方向性検討の進展

運営方針：

「河川空間利用に関する調整の場の提供」と「（仮）専門家リストの作成」を優先的に検討する。

各課題の情報共有と解決の方向性を検討する。

地先の活動団体等をリスト化し、情報共有の場を提供する。

WG時の意見交換内容から見る活動提案

○活動を軌道に乗せるには、矢作川研究所のような行政と市民の間に立つ調整役が必要か、また、どのように体制を構築していくかについて今後検討していく必要がある。

○行政のバックアップが重要であることを確認。

○活動場所をきれいに保つことが、マナー違反の抑止につながることを確認。

○マンパワー不足に対して、地元の若い世代との連携が有効である。

○専門家リストについては、各組織より各分野のキーパーソンや活動団体の情報提供を行う必要がある。

《来年度の活動内容（例示）》

① 活動環境に関する課題について

活動団体MAPの作成（川に関わる活動団体の把握）／活動団体へのヒアリング（地先の課題の抽出）／個別課題の情報共有／個別課題の解決の方向性の検討 など

② 活動推進上の課題について

河川空間利用の調整（関係機関、市民意見の反映）の場の提供／（仮）専門家リストの作成・試行運用／課題解決の方向性の検討 など

来年度の活動方針（案）

○ WGメンバーからの矢作川本支川に関わる活動団体の情報提供により、**活動団体MAP**を作成しつつ、協力いただける**活動団体へのヒアリング**を通して、地先の課題を抽出する。

（事業実施に関わる地域の活動団体を対象とすることも考えられる。）

○ WGメンバーからの矢作川本支川に関わる**専門家**の情報提供により、**（仮）専門家リスト**を作成する。

■川部会の活動運営に向けて

《来年度の活動運営の考え方》

- ① できるだけ多くの人に参加してもらうため、川部会メンバーが参加したい活動を中心とし、川部会メンバーの主体的な参画に基づき、活動を実施します。
- ② 活動は概ね月1回程度を想定する。各モデルの開催頻度（全8回とした場合）は以下のとおり。
本川モデル：3回　家下川モデル：2回　地先モデル：3回
- ③ 川部会メンバーから提案があり、川部会WGで検討すべき内容として認識された課題については、3モデルの対象区間にとらわれず、検討を行うこととする。